

公益財団法人秋田市総合振興公社
建築物エネルギー消費性能適合性判定業務約款

建築物エネルギー消費性能確保計画の提出者若しくは軽微変更該当証明書の申請者（以下「甲」という。）及び公益財団法人秋田市総合振興公社（以下「乙」という。）は、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律（平成27年法律第53号。以下「法」という。）、同法施行令（平成28年政令第8号）、同法施行規則（平成28年国土交通省令第5号）並びにこれに基づく告示・命令等を遵守し、この約款（計画書及び引受承諾書を含む。以下同じ。）及び乙の建築物エネルギー消費性能適合性判定業務規程（以下「規程」という。）に定められた事項を内容とする以下の契約（以下「この契約」という。）を締結し、誠実に履行する。

（甲の責務）

- 第1条 甲は、規程に従い、消費性能確保計画の計画書若しくは軽微変更該当証明申請書及び判定に必要な図書（以下「提出書類」という。）を乙に提出しなければならない。
- 2 甲は、乙が提出された書類のみでは判定業務を行うことが困難であると認めて請求した場合は、乙の判定業務の遂行に必要な範囲内において、引受承諾書に定められた業務の対象建築物（以下「対象建築物」という。）の計画、施工方法その他必要な情報の追加書類を双方合意の上定めた期日まで遅滞なく、かつ正確に乙に提供しなければならない。
- 3 甲は、規程に基づき算定され引受承諾書に定められた判定料金を、第4条に規定する日（以下「支払期日」という。）までに支払わなければならない。
- 4 甲は、乙の判定業務において、対象建築物の計画に関し乙がなした判定基準への是正事項の指摘に対し、双方合意の上定めた期日まで速やかに提出図書の修正又はその他の必要な措置をとらなければならない。

（乙の責務）

- 第2条 乙は、法及びこれに基づく命令によるほか規程に従い、公正、中立の立場で厳正かつ適正に、判定業務を行わなければならない。
- 2 乙は、次条の業務期日までに、この判定業務の適合判定通知書（軽微変更該当証明書を含む。以下、「適合判定通知書等」という。）を交付し、又は適合判定通知書等を交付できない旨を通知しなければならない。
- 3 乙は、甲から乙の業務の方法について説明を求められたときは、速やかにこれに応じなければならない。

（業務期日）

- 第3条 乙の業務期日は、規程第8条第4項の引受承諾書に定める日とする。
- 2 乙は、甲が第1条及び第6条第1項に定める責務を怠った時、その他乙の責に帰することができない事由により、業務期日までに業務を完了することができない場合には、

甲に対しその理由を明示の上、業務期日の延期を請求することができる。

- 3 甲が、乙にその理由を明示し書面でもって業務期日の延期を申し出た場合で、乙がその理由が正当であると認める場合には、乙は業務期日の延期をすることができる。
- 4 第2項及び第3項の場合において、必要と認められる業務期日の延期その他の必要事項については甲・乙協議して定める。

(判定料金の支払期日)

第4条 甲の支払期日は、消費性能確保計画の提出日又は軽微変更該当証明申請日までとする。

- 2 甲と乙は、別途協議により合意した場合には、他の期日を取り決めることができる。
- 3 甲が、第1項の支払期日までに支払わない場合には、乙は、適合判定通知書を交付しない。この場合において、乙が当該通知書を交付しないことによって甲に生じた損害については、乙はその賠償の責に任じないものとする。

(判定料金の支払方法)

第5条 甲は、規程に基づく料金を、前条の支払期日までに、現金又は乙の指定する銀行口座に振込みの方法で支払うものとする。

- 2 前項の手続きに要する費用は、甲の負担とする。
- 3 甲と乙は、協議により合意した場合には、別の支払方法をとることができる。

(適合判定通知書交付前の変更依頼)

第6条 甲は、適合判定通知書の交付前までに甲の都合により対象建築物の計画を変更する場合は、双方合意の上定めた期日まで速やかに乙に通知するとともに、変更部分の適合性判定関係図書を乙に提出しなければならない。

- 2 乙が、前項の変更を大規模なものと認めた場合にあっては、甲は、当初の計画書等の提出を取り下げ、別件として改めて乙に計画書等を提出しなければならない。
- 3 前項に規定する提出の取下げがなされた場合は、次条第2項の契約解除があったものとする。

(甲の解除権)

第7条 甲は、次の各号のいずれかに該当するときは、乙に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

- (1) 乙が、正当な理由なく、判定業務を第3条第1項に定める業務期日までに完了せず、又その見込みのない場合
 - (2) 乙がこの契約に違反したことについて、甲が相当期間を定めて催告してもなお是正されないとき
- 2 前項に規定する場合のほか、甲は、乙の業務が完了するまでの間、いつでも乙に書面をもって計画の提出等を取り下げる旨を通知してこの契約を解除することができる。
 - 3 第1項の契約解除の場合、甲は、判定料金が既に支払われているときはこれの返還を乙に請求することができる。また、甲は、その契約解除によって乙に生じた損害について、その賠償の責に任じないものとする。
 - 4 第1項の契約解除の場合、前条に定めるほか、甲は、損害を受けているときは、その

賠償を乙に請求することができる。

5 第2項の契約解除の場合、乙は、判定料金が既に支払われているときはこれを甲に返還せず、また当該料金がまだ支払われていないときはこれの支払を甲に請求することができる。甲は、既に支払った料金が過大であるときは、その一部の返還を乙に請求することができる。

6 第2項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときは、その賠償を甲に請求することができる。

(乙の解除権)

第8条 乙は、次の各号のいずれかに該当するときは、甲に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

(1) 甲が、正当な理由なく、第4条第1項に定める支払期日までに判定料金を支払わない場合

(2) 甲がこの契約に違反したことについて、乙が相当期間を定めて催告してもなお是正されないとき

(3) 甲の責に帰すべき事由により業務期日に適合判定通知書を交付することができないとき

2 前項の契約解除のうち、乙は、判定料金が既に支払われているときはこれを甲に返還せず、また当該料金がまだ支払われていないときはこれの支払を甲に請求することができる。また、乙は、その契約解除によって甲に生じた損害について、その賠償の責に任じないものとする。

3 第1項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときは、その賠償を甲に請求することができる。

(乙の免責)

第9条 乙は、判定業務を実施することにより、甲の提出に係る対象建築物が建築基準法及び住宅の品質確保の促進等に関する法律並びにこれらに基づく命令及び条例の規定に適合することを保証しない。

2 乙は、判定業務を実施することにより、甲の提出に係る対象建築物に瑕疵がないことを保証しない。

3 乙は、甲が提出した判定に係る関係図書に虚偽があることその他に事由により、適切な判定業務を行うことができなかつた場合は、当該判定業務の結果に責任を負わない。

(所管行政庁への説明)

第10条 乙は、関係所管行政庁から説明を求められた場合には当該事案にかかる判定業務の内容、判断根拠その他の情報について、当該所管行政庁に説明することができる。

(秘密保持)

第11条 乙は、この契約に定める業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

2 前項の規定は、次の各号のいずれかに該当するものには適用しない。

(1) 既に公知の情報である場合

(2) 甲が、秘密情報でない旨書面で確認した場合
(別途協議)

第12条 この契約に定めのない事項及びこの契約の解釈につき疑義を生じた事項については、甲及び乙は信義誠実の原則に則り協議のうえ定めるものとする。

附 則

この約款は、令和7年4月1日から施行する。